上諏訪久保田家旧蔵 尾崎行雄関係資料に見る代議士支援者関係

高島 笙[*1]・眞壁 ゆい[*2]
[*1] 成蹊大学非常勤講師　[*2] 相模原市立博物館

はじめに

尾崎行雄（雅号：咢堂）（本文中、故人の敬称略。以下同じ。）は、相模国津久井県又野村（現在の相模原市緑区又野）生まれの政治家で、明治23（1890）年の第1回衆議院議員総選挙にて初当選して以降、連続当選25回、通算議員在任歴60余年の間、民主主義と国際平和のために尽力した本市が誇る偉人である。その功績から、今日において「議会政治の父」、「憲政の神様」と称され、生前には憲政功労者として衆議院から二度の特別表彰を受けた。

相模原市立博物館では、尾崎に関わる様々な資料を広く収集し、後世に伝えるために保存・活用している。これまで、こうした当館の取り組みを知った数多くの方から資料の寄贈を受けたが、とりわけ件数が多かった令和5年度には1年間で9件もの寄贈申し出があった。これらの新規収蔵資料をいち早く披露する場として開催したミニ企画展「相模原に生まれた偉人　尾崎行雄（咢堂）新規収蔵資料展」においては、令和6年6月1日～30日の会期中（実日数24日間）に4,798人が展示を観覧し、没後70年を経過してもなお、尾崎が人々の関心を集める郷土の偉人であることを強く認識した。

今回報告する「上諏訪久保田家資料」も、令和5年度に寄贈された資料である。旧蔵者である久保田力蔵（写真1）についての詳細は後述するが、上諏訪（現在の長野県諏訪市）で「如鳩堂」という薬局を営み、尾崎をはじめ多くの著名人と交友関係にあった人物で、岩波書店創業者である岩波茂雄と尾崎との間を取り持っている（注1）。

１．寄贈の経緯と資料について

令和5（2023）年10月4日、久保田力蔵の曾孫である伊澤幸子氏から、所蔵している尾崎関係の書簡や書画等を当館へ寄贈したい旨の申し出があり、翌月7日に資料を受け入れた。あわせて、伊澤氏の伯母で久保田力蔵の孫にあたる加藤順子氏が所蔵する屏風一隻（Ⅳ．書画-17）についても寄贈の意向を示されているとの情報提供をいただき、こちらも同年12月6日に寄贈を受けた。なお、これは昭和15（1940）年7月13日付久保田力蔵宛書簡（Ⅲ．書簡5-1）にある『如鳩堂追悼録』口絵の屏風とは異なるもので、全14点の揮毫が屏風に仕立てられた六曲屏風である（写真2）。

寄贈された久保田家旧蔵資料のうち、尾崎に関係するものは全部で46件54点あった。詳細は後掲の資料目録のとおりであるが、「（Ⅰ）写真」、「（Ⅱ）新聞」、「（Ⅲ）書簡」、「（Ⅳ）書画」、に分類し、点数内訳は順に〈3件3点〉、〈1件3点〉、〈25件31点〉、〈17件17点〉を数えた。

２．久保田と地域政治

本論に入る前に久保田力蔵について簡単に見ておきたい。久保田は諏訪高島藩士の家系に生まれる。『如鳩堂追悼録』（注2）の略歴には「二十四人扶持」と記載されるものの、高島藩の分限帳では24人扶持の家は見つからず、中～下級家臣に久保田姓の家がいくつか見られる（注3）。久保田は私立薬学校（現在の東京薬科大学）を経て、明治20（1887）年に東京帝国大学医学部に進む（注4）。その後、故郷の上諏訪に薬局如鳩堂を開局し、長野県でも有数の薬屋となっていく。

こうした通俗道徳的な成功の過程で、久保田は諏訪の地域政治にも関わっていく。名望家として商工会議所会頭や上諏訪町議、諏訪市議などを務めていったほか、町長選や県議選、衆院選などに際しては候補者の支援を行っていた（注5）。略歴によれば、昭和5（1930）年に「一心会」という会を設立して宮沢胤勇を推したとされている。「一心会」は同年の第17回総選挙で民政党から立候補、当選した宮沢の個人後援会であると見ていいだろう。この通り、久保田は上諏訪における地域政治に影響を及ぼすポジションであったことが分かる。

３．久保田と尾崎―事実上の咢堂会支部

久保田が特に心酔したのが尾崎行雄であった。『如鳩堂追悼録』の略歴では、明治19（1886）年に薬学生として上京の折、「浅草区生村楼に於ける尾崎学堂の演説会に臨み学堂の識見に傾倒す」と書かれている。尾崎が雅号を「咢堂」に改める以前からの古参ということになろう。ただ、実際に尾崎と知遇を持ったのは大正期の第一次憲政擁護運動の頃からと見え、尾崎の四男で秘書を務めた尾崎行

輝によれば、「憲政擁護時代、畔田明君を介して御懇意になつただらうと推定されます」（注6）とのことであった。その後、久保田は尾崎に共感・心酔し、熱心な「信者」として長野県における尾崎の活動を支えていく。

久保田は長野県中南信地方において、咢堂会の事実上の支部機能を持っていたものと思われる。詳細は不明であるが、北信から新潟にかけては信越咢堂会があったため、長野県内でもすみ分けがなされていたものであろう（注7）。今回寄贈された上諏訪久保田家資料からは、実際の支部的な機能として久保田が書籍の頒布や演説会の取りまとめを行っていた様子がうかがえる。例えば、昭和10（1935）年5月8日付久保田宛書簡（Ⅲ．書簡-15）では、『人生の本舞台』10部を送付するので、「御知人に御配布を乞ふ」としており、久保田を介して書籍の頒布が行われていたことが分かる。

さらに、尾崎は中南信地方における演説会のとりまとめも久保田に依頼していた。昭和11（1936）年10月14日付の久保田宛書簡（Ⅲ．書簡-3）では、南安曇郡南穂高村（現在の安曇野市）の飯沼民治からの講演依頼があったが、「如何なる人物か不明に付貴君に御相談せよと返答致候所電報にて諾否及日取の確当を求め来り候」と、尾崎が久保田に演説会の周旋を依頼していたことが分かる。他にも、同年11月5日付久保田宛書簡（Ⅲ．書簡-11）でも16日の上諏訪の青年会における講演について、「講演の可致は青年会の河原卯平氏より照会有之候間右の趣返答致置候へ共尚貴台より其旨青年会まで御通知被下度候」と依頼していた。これらの書簡から、久保田は中南信地方における尾崎の演説会の取りまとめ機能を持っていたことが分かる。

また、こうした演説会の速記録などの作成も行っていたと思われ、久保田宛に速記の印刷物の受領を伝える葉書（Ⅲ．書簡-24）が見られる。なお、秘書であった尾崎行輝からは、久保田宛に『上田毎日新聞』や北佐久郡小諸町（現在の小諸市）の『民衆新聞』に掲載された尾崎の演説速記が送られている（Ⅱ．新聞-1-1～3）ことから、久保田の影響下の地域が中南信地方に留まる蓋然性は高いと言えよう。

このように、久保田は一人後援会のような形で、尾崎と長野県中南信地方の間を取り持っていた。資料的には定かではないが、おそらくいくつかの咢堂会にも参加していたものと思われる（注8）。中でも、尾崎自身が「名古屋に咢堂会が出来た時、久保田君は他県人でありながら、会毎に態々出席して呉れた」（注9）と述べており、名古屋咢堂会の会員にはなっていたことは確定できる。

ここまで見てきたように、久保田は長野県の一定の範囲において事実上の咢堂会支部のような役割を担っていた。尾崎側から特段費用支弁があったとは考えにくく、久保田の手弁当だったものと思われる。まさに尾崎「信者」であったと言えよう。他方で、尾崎も久保田に全く報いなかったというわけでは無く、むしろ手厚い返礼をなしていく。サイン入りの肖像写真（Ⅰ．写真-1）や、多くの書画類などを贈っているほか、登山や楽山荘での湯治、雲仙への旅行など（Ⅲ．書簡-16、18、20）各地への旅行に随伴する誘いもなしている。代議士と支援者という関係にある両者の関係が、今日想像されるそれよりも相当深いものであるということがうかがえよう。

４．尾崎顕彰と久保田家

上諏訪久保田資料は久保田力蔵だけでなく、両者の死後における関わりが分かる点でも貴重な資料群である。尾崎の死後、昭和31（1956）年に刊行された『尾崎咢堂全集　第十二巻』（公論社）には、尾崎が知人に送った書簡類が翻刻されて収められている。久保田からの書簡も5通が掲載されており、その原本が今回寄贈された上諏訪久保田家資料に収められている（Ⅲ．書簡-2-1、5-1、6-1、9、18）。さらに、Ⅲ．書簡-6-2「鈴木正吾宛久保田力書状」からは、久保田力蔵の息子である力から、尾崎咢堂全集編纂委員会で中心的な役割を担っていた鈴木正吾に書簡類が送られ、全集の編纂が終わった後にこれらが返却されたことが分かる。特に「久保田力蔵宛尾崎行雄書簡」（Ⅲ．書簡-5-1）に付随する「メモ」（Ⅲ．書簡-5-2）は、全集第12巻367－368頁所収の書簡に付けられた「注記」とほぼ同じ文言であり、編纂過程が分かる貴重な資料であると言えよう。

その他にも、昭和26（1951）年に刊行された伊佐秀雄『尾崎行雄伝』（同刊行会）の頒布に関する資料も残されている。著名な代議士などが死去した際に発行される伝記は、しばしば葬式饅頭に例えて「饅頭本」と呼称される。本稿で重要な役割を果たしている久保田の追悼本である『如鳩堂追悼録』も饅頭本の類である。伊佐版尾崎伝は尾崎の生前に出されたものであるが、付物を除いて1366頁という厚さや、クロス張りといった装丁からも「饅頭本」としての要素を色濃く持っていると言えよう。この尾崎伝は古書市場ではよく見かけるものの奥付に「非売品」と書かれており、その頒布方法は判然としてこなかった。今般寄贈された上諏訪久保田家資料には、著者の伊佐秀雄から久保田力に宛てた書簡が残されている（Ⅲ．書簡-1-1）。そこには出版にかかる「趣意書」（Ⅲ．書簡-1-2）や販促リーフレットなども付されており、非売品の伝記が頒布される様子が判明した。今回の寄贈や資料整理は、

尾崎の顕彰運動を整理していく上で大きな成果となるように思われる。

以上のように、尾崎と久保田家の関係は決して戦前に留まるものでは無かった。久保田は戦時中に死去するが、その後も尾崎の顕彰運動の過程で顧みられることとなる。関係者の間では、顕彰運動の過程で無くてはならないような深い関係性を結んだ人物として、久保田が記憶されていたと言えるだろう。それだけの深い関係を代議士と支援者が結び得た、いわば代議士「信者」の在り方を上諏訪久保田家資料は教えてくれるのである。

謝辞

末筆になりますが、貴重な資料を寄贈いただき、資料調査にあたっては久保田家に関する資料や情報提供に多大なるご協力をいただいた加藤順子氏、伊澤幸子氏に心から御礼を申し上げます。

注

(1) 小澤侃二編『如鳩堂追悼録』同発行、1950年、略歴を参照。
(2)『如鳩堂追悼録』略歴を参照。
(3) 信濃教育会諏訪部会編『諏訪史料叢書　巻三十三』(同会、1942年）所収の文化年間と思われる分限帳や、国立国会図書館憲政資料室所蔵の高島藩分限帳（渡辺千冬関係文書72）を参照。なお、22俵2人扶持の久保田宇兵衛家が久保田姓で最も俸禄が多い家柄である。
(4)『如鳩堂追悼録』略歴を参照。なお、年次から東京帝大であると判断した。
(5) 宮坂篤衛「青少年の為に叙せ」(『如鳩堂追悼録』33頁)、向山友治郎「非政友の創始者」(同前、93-95頁）など。
(6) 尾崎行輝「頭の働らいた人」『如鳩堂追悼録』14頁。
(7) 阪上順夫『尾崎行雄の選挙』和泉書院、2000年、111頁。
(8) 尾崎の咢堂会は日本各地に結成されているものの、縦横の繋がりがどのように行われていたのかは定かではない。本稿の趣旨からも外れるため、この点は今後検討の課題としたい。
(9) 尾崎行雄「序」『如鳩堂追悼録』

写真１　久保田力蔵（左）と尾崎行雄（右）

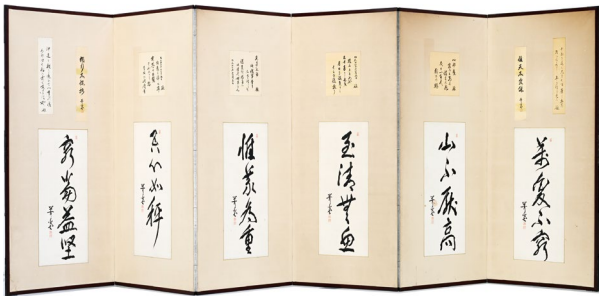

写真２　（Ⅳ）書画-17　屏風

【凡例】

(1) 当目録は、令和5年度に寄贈された「上諏訪久保田家資料」のうち、尾崎行雄（咢堂）に関係するものとして選別した46件54点の目録である。作成は、高島笙（成蹊大学非常勤講師）・相模原市立博物館の共同整理によるものである。
(2) 各資料の内容により、写真・新聞・書簡・書画の4つに分類し、記載項目は分類別通し番号、資料名、年代、作成・差出、受取（為書）、形態・数量、法量、内容及び備考を掲げた。掲載は順不同である。
(3) 資料名欄は原資料の名称のほか、特に書簡は記載内容を簡潔に表現した。
(4) 年代が明示されていない、または不鮮明な資料で、推定可能なものは（　）を付し、推定の根拠等を備考欄に記載した。
(5) 原則として、常用漢字を用いた。

上諏訪久保田家資料目録

Ⅰ．写　真

番号	資料名	年代	作成・差出	受取	形態・数量	法量（mm）	内容・備考
1	尾崎行雄の肖像写真	不詳	–	–	1	282×230	右下にサイン入り。
2	久保田力蔵と尾崎行雄	不詳	–	–	1	300×205	3の写真と背景、服装が同じ。
3	集合写真	不詳	–	–	1	235×300	久保田と尾崎は2と同じ服装、背景建物看板「ヒツツテ霧ヶ峰」か。『如鳩堂追悼録』15頁にヒュッテ霧ヶ峰でのスキーに関する記述あり。

Ⅱ．新　聞

番号	資料名	年代	作成・差出	受取	形態・数量	法量（mm）	内容・備考
1-1	封筒		信州追分駅前原始洞・尾崎行輝	信州上諏訪町・久保田力蔵様	封1	200×80	1-1、1-2を入れる。
1-2	新聞切り抜き	昭和11.7.14～7.21	–	–	綴1	290×90	右上クリップ留め。「上田毎日」と鉛筆書き有、「立憲政治の本義　七月十一日上田市公会堂に於いて　尾崎行雄氏演説速記」（1）～（7）、7点1式。
1-3	『民衆新聞』第七十二号	昭和11.7.15	小諸町二三四番地ノ二・発行所・民衆新聞社	–	状1	384×273	二面に尾崎の演説要旨有、「農村更生連盟主催演説会に於ける尾崎行雄先生演説要旨　七月十一日上田公会堂　七月十二日中込座」

Ⅲ．書　簡

番号	資料名	年代	作成・差出	受取	形態・数量	法量（mm）	内容・備考
1-1	「『尾崎行雄伝』が漸く完結出版されましたので、御霊前に捧げたいと思つて出版元より送らせておきました」	5.12	咢堂思想会・東京都立川市柴崎町二ノ四五・立川印刷所内（電立川一六八）・イサヒデオ	大森区新井宿二ノ一六八三・久保田力様	状1封1	状：184×257 封：195×72	昭和26年頃か。
1-2	『尾崎行雄伝』の刊行趣意書	（昭和26？）	発起人代表・馬場恒吾	–	状1	180×540	1-1に同封、活版印刷。申込書付き、直接著者に申込みの場合二割五分引きの旨書込み有。
1-3	『尾崎行雄伝』のリーフレット	（昭和26？）	発行所・東京都港区芝琴平町二虎ノ門会館・尾崎行雄伝刊行会	–	冊1	210×296	1-1に同封。
2-1	「おてがみとしんぶん、ありがたくはいけんしました。氏地方もかなりあれたやうですが、被害ハありませんか。してみるとあの位の風雨ハやはり天祐の内であつたと～」	昭和14.7.13	ユキヲ	クボタさま	状1封1	状：250×190 封：210×74	
2-2	メモ「当時のファッショ化に対し暴風を天罰とみた先生の御考へがユーモラスにあらはれていると思ひます。」	–	–	–	状1	250×177	2-1に同封。
3	「過日、南安曇郡南穂高殿村桑園改良奨励会飯沼民治と云ふ人より講演を依頼し来りたれど如何なる人物か不明に付貴君に御相談せよと返答致候所電報にて諾否及日取の確当を求め来り候」	（昭和11）10.14	相州逗子町風雲閣・尾崎行雄	信州上諏訪町・久保田力蔵様	状3封1	状：185×220 封：210×84	封書き「急」
4-1	「蒲焼を御ねだり申候所、御苦心の末、沢山御恵贈に預かり今朝受領し、昼食と夜食に既に２回賞味仕候。非常に美味」「御礼のしるしまでに腰折ノ一首拝呈いたしたく」	6.7	新潟県中頸城郡名香山村池之平・温泉旅館楽山荘・尾崎行雄	長野県、諏訪市、上スワ・久保田力蔵様	状1封1	状：295×396 封：214×81	東郷五銭切手のため、昭和17年～昭和21年の間。
4-2	まくり（和歌「野の幸は～」、鰻の蒲焼の返礼の旨為書有）	–	行雄（印）	–	状1	294×220	
5-1	「岩波君の厚意にムクユルため何かいたしたく思ひ」「近作1首を2枚折の屏風になるやうに書いて進呈せんと思い」「同君にお渡し下されませんか」「貴台のためにも同じ物を書きました」	（昭和15）7.13	ユキヲ	信州、スワ町、上スワ・久保田力蔵様	状2封1	状：190×250 封：210×83	5-2に屏風の翻刻有、『如鳩堂追悼録』口絵の屏風と同じ文言のため年代比定。
5-2	メモ「書簡中近作一首とあるは左のものにて日独伊三国同盟を批判したものである」	–	–	–	状1	250×176	『如鳩堂追悼録』口絵の屏風の翻刻有。
6-1	「貴町特製の米粕にて作れる各菓子見本として少々づゝ当地迄送りくれ候」	（昭和4）8.20	信州軽井沢・尾崎行雄	信州諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：200×250 封：207×85	『尾崎咢堂全集』12巻所収と思われる。
6-2	書状「先日御申越の咢堂先生の書簡（封書五、葉書一）を御送り致します。」	11.11	久保田力	鈴木省吾様	状1	250×176	『尾崎咢堂全集』12巻の書簡集編輯にかかわるものと思われる。2-2、5-2と同様の便箋のため、これらのメモも全集編輯関係か。
7	「一枚ハ額との御沙汰なれど貴書到着以前に揮毫投函のため」「若し紙にて宜しく候ハば額を認めて御送り申可候」	（昭和11）11.21	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状2封1	状：190×212 封：207×82	
8	「御持贈下されたる蒲焼ハ非常の良品にて、毎日賞味御厚情に感謝致居候」	2.7	神奈川県逗子（披露山）・尾崎行雄	信州、スワ市、上スワ・久保田力蔵殿	状1封1	状：286×209 封：200×84	東郷五銭切手のため、昭和17年～昭和21年の間。
9	「私ハその後もケンコウにてくらしましたが、今月末日ヨリ帰東のヨテイです」	9.25	信州、軽井沢、莫哀山荘・尾崎行雄	信州、上スワ町・久保田力蔵殿	状1封1	状：275×218 封：208×81	
10	「貴書二通及菓子二箱正に受領、御厚情感謝仕候」「本年は九月十日ころ当地を引上げ逗子にて著述に従事する予定に候従て秋季遊説ハ見合せる積りに候」	8.27	信州軽井沢・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：198×251 封：208×83	
11	「十六日御地にて講演可致は青年会の河原卯平氏より照会有之候間右の趣返答致置候へ共尚貴台より其旨青年会迄御通告被下度候」	（昭和11）11.5	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：188×222 封：210×84	
12	「ガソリン、ストーヴ其付属品御送り下され有りがたく存候」「右の代価と運賃御一報相願度」	（昭和11）12.10	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：190×220 封：208×83	
13	「国難を救ふへき療治法研究のため八月十三日横浜発の浅間丸にて渡米」	（昭和6）7.31	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	長野県上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：200×260 封：208×83	
14	「ストーブ代として御来示に依り三十金封入致候」	（昭和11）12.16	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：189×222 封：209×84	書留郵便、12の関連資料として年比定。
15	「人生観に関する小冊子十部と昨今軍人間の問題となり居る質問書を搭載したる『時局』一部相送致候間御一読被下度候『人生の本舞台』ハ御知人に御配布を乞ふ」	（昭和10）5.8	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：188×222 封：210×84	『人生の本舞台』初版は昭和10年5月。
16	「女婿佐々木の経営に係る信越線田口駅の池の平楽山荘と云ふ温泉宿あり」「娘より御招き致す様に依頼され候廿五日には諏訪より御同行可仕候」	（昭和11）10.12	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：188×220 封：210×84	

番号	資料名	年代	作成・差出	受取	形態・数量	法量（mm）	内容・備考
17	「ガソリンストーヴの製造元、及売捌所ドコなるや御一報相願度候」	（昭和11）12.2	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、上諏訪町・久保田力蔵殿	状1封1	状：190×221 封：211×84	
18	「私ハ、26日午后3時中央駅発のフジ号にてイサハヤまで直行し、ソコより登山するつもりです」「三ワ君も多分ナゴヤより、同列車に乗るでしょう。御同行願ハれますか？」	（昭和14）10.20	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、スワ町、上スワ・久保田力蔵殿	状1封1	状：263×200 封：223×84	速達
19	「大審院ハ延期になりました」「3日付の貴書ハ当地にて拝誦し、御知人の希望に応じ別紙二葉封入しました」	（昭和19）3.11	新潟県中頸城郡名香山村池之平 温泉旅館楽山荘・尾崎行雄	信州、スワ市、上スワ・久保田力蔵殿	状1封1	状：278×216 封：218×83	内容に歌1首あり。
20	「私ハ27日と28日は、ウンゼンに泊まるつもりですから、１日おくれても、お出かけ下さいまでんか」	（昭和14）10.23	相州、逗子町、風雲閣・尾崎行雄	信州、スワ町、上スワ・久保田力蔵殿	状1封1	状：263×200 封：216×84	速達
21	当選礼状「御陰様で無事当選致候段厚く御礼申上候」「何分にも留守中の事とて不安にたへず全力を傾倒」	（昭和7）2.23朝	東京市外大森馬込町東八八五（尾崎行輝方）・咢堂会本部・尾崎行輝	信州上諏訪町三九六・久保田力蔵様	状1封1	状：223×190 封：233×95	尾崎外遊中の昭和7年に行われた第18回総選挙の当選礼状。
22	「三ワ君も21日に都合がつくそうですから、どうぞ御くり合わせの上、御同行（山田温泉）下さい」	（昭和15）	相州逗子町風雲閣・尾崎行雄	信州、上スワ町・久保田力蔵殿	状1封1	状：279×215 封：250×91	速達
23	書状「今年も例によつて元旦に筆染めいたしたく候へ共、御尊父様も既に天界の人となりる。懐旧の情にたえがたく別紙拝贈いたし候」	1.18	ヲザキユキヲ	久保田殿	状1	250×183	久保田力宛か。
24	絵葉書「演説筆記の印刷物ありがたく拝受仕候、明日帰区」	（昭和9）9.24	信州、軽井沢、莫哀山荘・尾崎行雄	信州、上諏訪・久保田力蔵殿	1	89×140	絵面「軽井沢莫哀山荘」
25	絵葉書「是は先年私が東京市長として贈りたる三千本の桜にて今は当府の一大名物となり居候」	1931.11.10	行雄	信州諏訪町・久保田力蔵殿	1	90×140	絵面「BEAUTIFUL JAPANESE CHERRY BLOSSOMS, WAHINGTON,D.C.」

Ⅳ．書　画

番号	資料名	年代	作成・差出	受取（為書）	形態・数量	法量（mm）	内容・備考
1	「高哉空広き海をは眺めつゝ一人思ひに沈むわれかな」	不詳	尾崎行雄	-	短冊1	360×60	「眺」は「目」に「永」と表記。
2	「数ならぬ身と思ほへす尊けれ海天万里一人ある時」	不詳	尾崎行雄	-	短冊1	360×60	
3	「屈指英雄多」	不詳	咢堂	-	短冊1	360×60	
4	「治乱真児戯」	昭和20	咢堂	-	短冊1	360×60	
5	「平生不夢封候事」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：1,100×525 本紙：700×460	
6	「北馬南舩五十年」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：1,100×525 本紙：700×445	
7	「天上之宝固当与天下共之也」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：1,870×525 本紙：1,580×410	
8	「惟義為重」	不詳	咢堂	-	書1	335×1,060	
9	「名香文美」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：460×1,880 本紙：350×1,105	
10	「得一以清」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：460×1,860 本紙：340×1,130	
11	「不争善勝」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：460×1,855 本紙：350×1,050	
12	「日月無私照」	昭和15	咢堂	久保田君	掛軸1	表具：460×1,855 本紙：345×1,230	
13	「道義淵海」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：460×1,850 本紙：345×1,135	
14	「与古為徒」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：460×1,850 本紙：350×1,180	
15	「受天百禄」	不詳	咢堂	-	掛軸1	表具：460×1,860 本紙：340×1,140	
16	「異體同心双鶴去楼千年樹」	不詳	咢堂	久保田力君	掛軸1	表具：1,990×480 本紙：1,400×320	久保田力の結婚祝いとして贈られたもの。
17	屏風	昭和11.11.5	咢堂	-	1隻	1,345×3,390	六曲一隻、全14点の揮毫が屏風に仕立てられてたもの。